



眞実なる 神が受け取る

榊井伊三郎の母キクが重病で危篤となり、伊三郎は教祖にお救けを願いました。しかし教祖は「せっかくやけれども、身上救からんで」と仰せられ、伊三郎はそのまま家に帰りました。でも苦しむ母を見て再び願い出るも、「気の毒やけれども、救からん」と。それでも母を思う心から伊三郎は夜遅く三度目のお願いに足を運びました。すると教祖は、「救からんものを、なんでもと言うて、子供が、親のために運ぶ心、これ眞実や

がな。眞実なら神が受け取る。」と仰せくださり、キクは、救からん命を救けて頂き、八十八才まで長命させていただきました。

【稿本天理教教祖伝逸話篇一六「子供が親のために要旨」】

この逸話から、教祖の元へ何度も足を運び救かりを願うことの大切さや、眞実を尽くすことの尊さを教えて頂いているように思います。

おちばがえりの際はぜひ教祖殿まで足を運び、眞心からごあいさつを申し上げます。

本島大教会布教部（典）



天理教本島大教会